

八戸市美術館、市民委が意見

「バスケットに違和感」

「多目的施設か」

八戸市の熊谷雄一市長が掲げる政策公約の

取り組み状況を審議する市総合計画等推進市民委員会(委員長・堤

静子八戸学院大教授)の会合が22日、YSA

リーナ八戸で開かれた。委員からは、20

21年11月にオープンした市美術館の在り方

について戸惑いの声が相次ぎ、アート活動を

通じて人や街を育む同館のコンセプトが浸透

していないことが浮き

彫りとなった。

重点施策の一つである文化事業と商業機能

との連携について審査した際、委員の一人が

同館で3月に行われた3人制バスケットボー

ル「3x3」のエキシビジョンマッチに触

れ、「本来の美術館の使い方ではなく、人が

集まればよいというやり方は違和感がある」と指摘した。

別の委員も「入るとすぐに机で勉強してい

る学生たちが目に入り

驚いた。美術館という

と厳かな雰囲気や展示

物をイメージするが、

多目的施設のように根本の目的が分からない

など疑問を呈した。

副委員長の宮腰直幸

八戸工業大教授は「新しい形の美術館である

ことが市民に伝わっていない。計画の根底に

あるものをもっと周知し、企画でも独自色を

出してほしい」と要望した。

市美術館の宗石美佐

副館長は「ご意見をありがたく受け止める。

ご理解いただければよう

丁寧に説明したい」と述べた。(田村祐子)